

2. 民医連運動の前進と共同組織活動

友の会の組織拡大は、依然として「秋の月間頼み」の域を出ておらず、一進一退の状況が続いています。地域でまちづくりを推進する支部活動は、いくつかの地域で画期的な実践がされていますが、それらの経験を友の会全体へ広げるといって大きく立ち遅れています。

3. 決算概要

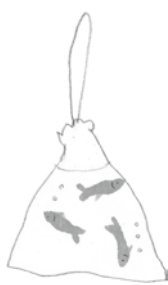
看護学校を除く医療・介護事業の経常損益は2億894万円（事業収益比13.3%）、対予算▲7910万円、対前年▲2億4126万円、利益予算2億8804万円の72.5%、前年比では半分以下の結果です。事業態別の予算差は病院が▲8千万、診療所が+1636万円、歯科診療所が+513万円、ST群が+1655万円、デイサービス群が▲2534万円、居宅支援群が▲83万円です。病院とデイサービス群の乖離が予算未達成に影響しています。病院は「待ったなしの改善」とデイサービスは「存亡をかけた対応」が必要です。

看護学校を除く医療・介護事業の事業収益は156億5277万円、対予算▲2億9419万円98.2%、対前年+2213万円100.1%でした。ここ数年の伸びは4〜6億円であったことからすれば、著しく鈍化・停滞したことが特徴で

す。事業態別の予算差は病院が▲1億4647万円、診療所▲7119万円、歯科▲185万円、訪問ST▲1414万円、デイサービス▲3884万円、居宅支援▲1183万円、全ての業態で予算確保ができず、全体で約3億円乖離しました。対前年で医療収益は8582万円増加しましたが、2012年の京都協立病院介護療養病棟からの転換を差し引けば実質は4193万円増です。この間、収益増を牽引してきた入院収益はわずか889万円増に過ぎません。

外来医療収益は減少、在宅医療収益が増加し、外来収益全体で5189万円増になりました。往診件数、延患者数、医療訪問看護件数・延数等の在宅分野が伸びました。保健予防活動収益は、対前年1032万円の減少です。健診は1789万円増、予防接種は2822万円減です。介護収益はほぼ前年と同じです。訪問看護は件数・延数とも前年を上回っていますが、訪問介護・デイサービスはともに前年から後退しました。

特定協力借入金（保健会基金）の残高は約31億円あり、総資産に占める割合は約20%です。全日本民医連の特定協力借入金の整備方針を具体化し、地域に依拠しつつ返済計画を具体化していく必要があります。



綾部・福知山構造転換事業の進捗

京都協立病院事務局長 稲次豊

京都協立病院は、「亜急性期を軸に、急性期病院からの転院を積極的に受け入れ、地域の事業所とも連携を強め在宅復帰を支援する」ために、まずは病棟機能を変更しました。4階一般病棟52床の内、5月から8床を地域包括ケア病床（主に急性期治療後の在宅復帰を支援する病床）とし、さらに7月から11床を追加、計19床で新病床を運用しています。3階療養病棟47床は6月から回復期リハビリテーション病棟に変更しました。今後は、外来機能について検討を予定しています。

ふくちやま協立診療所エリアは、7月1日にはほととSTきぼうが診療所敷地内に移転、連携をより強めていきます。さらにあやべ協立診療所デイサービスの仮設事業所としての運用も始まりました。工事完了後は、通所リハビリ（デイケア）を実施する計画です。

あやべ協立診療所エリアは、全館改修工事により、従来の事業に加え吉祥院病院と同じ複合型サービス施設を開設します。7月から、居宅介護事業と在宅ケアSTげんきは近隣の仮設事務所に移転し、診療所は休止し、患者さんは協立病院で診療を受けています。6月に入札にて改修工事業者を決定し、7月には工事開始となります。

依然として厳しい医師体制ではありますが、「地域包括ケア」時代、住み慣れた地域で安心して過ごせるように、北部地域で団結し事業成功に向けて奮闘していきたいと思えます。



あやべ協立診療所デイサービスを仮設事業所（ふくちやま協立診療所）で実施